

JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)



4

2008

Contents

■ 巻頭言	
新年度を迎えて —JAPICの新出版物	
(財)日本医薬情報センター理事長 首藤 紘一	2
■ インフォメーション	
「JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008」発刊	4
「第130回薬事研究会」を開催します	4
「第10回JAPICユーザ会」開催のご案内	4
「iyakuSearch Plus」IPアドレス認証開始のご案内	5
■ トピックス	
第36回JAPIC医薬情報講座を開催して	6
JAPIC医薬情報講座に参加して	
アスピオファーマ株式会社 清水 久仁恵	7
グラクソ・スミスクライン株式会社 單 麗華	7
iyakuSearch Plusリリース	8
■ コラム	
新薬学教育 —医療薬学科と創薬科学科	
近畿大学薬学部長 掛樋 一晃	10
くすりの散歩道 No.11 薬の歴史 —博物館から—	
(財)日本医薬情報センター 平林 洋介	12
■ 書評	
医薬品の効能効果と標準病名が対応する「添付文書記載病名集」の意義	
国際医療福祉大学 開原 成允	13
■ 図書館だよりNo.214	15
■ 情報提供一覧	15

No.288

新年度を迎えて —JAPICの新出版物

財団法人 日本医薬情報センター

理事長 首藤 紘一 (Shudo Koichi)



4月を迎え桜前線北上のニュースを耳にすることが多くなりました。桜に対する日本人の気持ちは独特なものがあるようです。桜には多くの種類があり、かなり花期が違います。京都市内では、最後が御室(仁和寺)の桜です。ここの桜は背が低く地面すれすれまで花をつけ、品種は有明一重が多いのが特徴です。昔はもっとぼってりした八重が多かったような気がします。時代の変化により桜の花も目に見えない部分で変わってきているのかもしれませんが。JAPICホームページでは「ガーデン」のコーナーがあり季節の花をご紹介します。お立ち寄りください。

JAPICホームページから入ることのできる「医薬品情報データベース iyakuSearch」は広く一般に公開をはじめてからすでに4年目を迎えました。医薬品の適正使用という観点から国内に流通する医療用・一般用医薬品の添付文書のPDFや医薬文献情報、学会演題情報、臨床試験情報、新薬承認審査報告書、医薬品類似名称など、自由に検索し調べることが可能なデータベースです。本誌でも紹介しておりますが4月より新たにより広く使いやすいデータベースとして新機能を加え改良しました。会員の皆様向けには毎日メール配信している JAPIC Daily Mail(海外の規制措置情報)もデータベースとし

て検索可能です。このように国内に流通する医薬品情報を誰もが簡単に調べることができるデータベース作成はJAPICの基本業務として位置づけており、医療支援の一つとしてより多くの方にご利用いただきたいと思います。

平成20年度は診療調剤報酬改訂や後期高齢者医療制度の創設、レセプトオンライン化など医療機関や薬局を取り巻く環境が大きく変わります。

JAPICでは長い間、医薬品の添付文書を収集し整理してきましたが、医薬品の適正な選択、有効性、安全性の確保、および診療録(カルテ)の医薬品と関わる事項の適切な記載に資するための一助として「**添付文書記載病名集Ver.2.0**」を発行しました。

医療において、カルテはそのプロセスの進行と記録のために欠くことができません。そこでは、診察の結果、確定あるいは疑われる病名が記録され、以後の全ての検査処置や医薬品の処方もこの病名に基づいてなされるのですから、病名は非常に重要な記載事項です。この病名は保険請求事務においては標準病名である必要があります。

一方、医薬品の効能効果は必ずしも標準病名で記載

されているわけではなく、また病名ではなく症状や症状の改善内容の記載であったりします。さらにかなり長い文章のこともあります。この効能効果を解析し、約1,700の標準病名に対応させ、それをICD10コードとともに示したのが初版の「添付文書記載病名集2006」でありました。ICD10コードは疾病分類のひとつであり、WHOの基本分類であり、同一のあるいは同一に近い病名表というべきものです。現実にはいろいろな場においてICD10が使われ、財団法人医療情報システム開発センター発行の標準病名表(およびデータベース)もこれに準じています。しかし、医薬品あるいはその効能効果との対応を考える時には、そこで記述された病名のICD10コードが同じであるからといっても、必ずしも適切なものが含まれているとは限りません。

「添付文書記載病名集 Ver.2.0」は、このICD10コードで同一分類とされる病名を各医薬品について点検し妥当性を評価し、その標準病名を記載したものです。この評価にあたっては、複数の専門の医師および薬剤師によって行われました。また、このVer.2.0ではJAPICが集積した医学文献や学会要旨に記載された病名のデータ集「JAPIC病名辞書データ」からも病名を抽出し標準病名に追加しました。

この結果は、「添付文書記載病名データベース」として、分解した効能効果毎に対応した標準病名(および、同義の病名や慣用語)、標準病名コード、医薬品コードとともに整備してあります。本書はこのデータベースから、効能効果に対応する標準病名を抜き出したもので、効能効果は添付文書記載どおりです。それに用法用量、禁忌などの重要事項を加えたものです。ここに採択された標準病名は約6,700となりました。この数は、標準病名の総数が約21,000であることを考えると、妥当なものと考えています。

このように、この病名集はできるだけ客観的に、中立で厳密な方法をもって作成したもので、恣意性はありません。

しかし、現実には沿わない点は多々あると思います。さらに、添付文書の記載の考え方が時代とともに変化し、また表現の複雑なものもあり、類薬でありながら記載の異なるものや解釈の難しいものもあります。この病名集をより実用的で妥当なものとするべく努力してまいります。それにはご利用の皆様方からのご意見ご批判が重要であり、是非ともご協力をお願いいたします。

また、本年は新たに**JAPIC「医療用医薬品集」普及新版2008**を発刊しました。本書は、従来の「JAPIC医療用医薬品集」の重い、厚いというご指摘に対する対応策として、最新の添付文書情報から投与に必要な“組成”、“効能効果”、“用法用量”、“使用上の注意”のみに絞込み、かつ見やすく編集を行い、成分ごとの記載をコンパクトにまとめたものです。このことで基となっている医療用医薬品集の網羅性を維持しつつ、重さと厚さを約半分にまで減らすことができました。その分情報の濃さは倍増し、価格も半分近くにまで下げることができました。2007年度から後発品収載が年2回となり、また、かなりの頻度で添付文書は改訂されており、本書と9月発行の「JAPIC医療用医薬品集」との半年の時差は追補としても十分に意義のあるものと言えます。本書籍の名前は、医薬品情報の定本である「JAPIC医療用医薬品集」(赤ジャピ)を更に普及させるための新しい書籍として「普及新版」といたしました。継続してご利用いただくことを願って止みません。

薬学教育6年制がスタートして本年は4年目に入りますが、「日本の医薬品構造式集」を全国の薬科大学の新生向けに2005年より贈呈しています。新たな薬学教育制度のもとでJAPICの資料を有効に利用していただきたいと願ってこの事業を継続しております。

本年度もJAPICの出版物や各種データベースのご利用をよろしくご依頼申し上げます。

Information インフォメーション

「JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008」発刊

この度、「JAPIC医療用医薬品集2008」の網羅性はそのままに記載内容をコンパクトにまとめた「JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008」を発刊致しました。

「JAPIC医療用医薬品集2008」にて、ご指摘をいただいております、厚みと重さの不便を解消し、日々刷新される医薬品情報に対応するため追補の意味も含めた書籍となっております。

是非この機会に「JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008」をお求めいただきますようご案内いたします。最新の添付文書情報を有効にご活用ください。

〈JAPIC医療用医薬品集 普及新版2008の特長〉

- 2008年12月薬価基準収載分までの医療用医薬品を網羅(約17,000製品)。
- 有効成分単位に記載しており、後発品を明示すると共に、先発・後発品での適応・用法の違いを簡潔に記載。
- 医薬品の投与に必要な不可欠の使用上の注意を中心に記載を絞り込みページ数を大幅に削減。
- 効能・効果、警告、禁忌、原則禁忌、副作用は枠で囲み、併用禁忌は赤文字で記載するなど、より重要な事項を強調し、必要事項を探しやすい紙面構成。
- 価格は約半分の7,875円(税込)。

医療用薬・一般用薬・医療用薬識別コード情報等を収録したソフトウェア「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版」とのセット[17,225円(税込)]もございます。



「第130回薬事研究会」を開催します

2008年度診療報酬改定について、社会保障制度での後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用と情報提供のあり方について、行政、企業、および医療機関の立場からご講演いただきます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時	2008年5月13日(火) 13:30~16:35
会 場	科学技術館 サイエンスホール(千代田区北の丸公園2番1号) TEL 03-3212-8448
参 加 費	JAPIC会員 1名 3,000円/非会員 5,000円(当日会場でございます)
申 込 方 法	JAPICホームページ(入力フォーム)からお申込みください
問 合 先	事務局 業務・渉外担当(TEL 0120-181-276)
プログラム	13:30~13:35 主催者挨拶 13:35~14:35 「2008年度診療報酬改定について」(仮題) 厚生労働省保険局医療課課長補佐 渡邊 伸一 先生 14:35~14:45 (休 憩) 14:45~15:45 「ジェネリック医薬品と信頼性向上について―品質、情報提供など」(仮題) 企業の立場から:日医工株式会社医薬情報部長 熊田 重勝 先生 15:45~16:35 「ジェネリック医薬品の使用と医薬品情報について」(仮題) 医療機関の立場から:東邦大学医療センター大森病院薬剤部部長補佐 飯久保 尚 先生

「第10回JAPICユーザ会」開催のご案内

平成20年度第10回ユーザ会を下記の日程にて東京と大阪で開催いたします。今年度の事業活動の取組みについてご紹介させていただきます。特別講演、事例報告、懇親会を計画しております。多数の皆様のご出席をお待ちしております。詳細は次号でご案内します。

日時・会場	東 京/平成20年6月10日(火) 13:30~18:00 長井記念館ホール 大 阪/平成20年6月12日(木) 13:30~18:00 大阪ガーデンパレス(大阪市淀川区西宮原1-3-35)
参 加 費	無 料

医薬品情報データベース「iyakuSearch Plus」 IPアドレス認証開始のご案内

医薬品情報データベース「iyakuSearch」は平成16年よりサービスを開始し、現在約6,000名の方にご利用いただいております。この度ご登録いただいているユーザの皆様方の利便性を向上させるため「iyakuSearch Plus」をリリースし、認証機能を追加して登録者認証の簡便化を図ることといたしました。

維持会員の業務担当の皆様にはすでにご案内しておりますが、IPアドレスをご登録いただくことで、「iyakuSearch Plus」への接続を自動的に認証します。利用者個々のユーザIDおよびパスワードの管理が不要となり、ダイレクトに「iyakuSearch Plus」をご利用いただけます。〈なお、IPアドレス認証では個人を特定することができないため、複写BOX（複写オーダ、有料）をご利用いただくことができません〉

平成20年4月より「iyakuSearch」、「iyakuSearch Plus」となります。

どなたでも無料でご利用いただける部分が「iyakuSearch」、ご利用にID/PW（10,000円/年 ※JAPIC会員企業・機関は無料）が必要な部分が「iyakuSearch Plus」となります。

《IPアドレスについて》

IPアドレスとは、インターネットに接続されているコンピュータを識別するために、各コンピュータに割り当てられた32ビットの数字列のことです。例) 123.45.67.89

■IPアドレス認証のお申込みは所定の用紙に必要事項をご記入の上お申し込みください。(TEL:03-5466-1812)

「iyakuSearch Plus」 IPアドレス認証とは？

〇〇大学の学生、Aさん、Bさん、Cさんが「iyakuSearch Plus」を利用するには、

現在

ユーザ登録とID/PWが必要です。

- 〇Aさんがユーザ登録をする → Aさん用のID/PWがAさんに送られてくる。
- 〇Bさんがユーザ登録をする → Bさん用のID/PWがBさんに送られてくる。
- 〇Cさんがユーザ登録をする → Cさん用のID/PWがCさんに送られてくる。

平成20年4月
より

IPアドレス登録をすれば、ユーザ登録とID/PWの必要はありません。

〇〇大学がIPアドレス認証の申込みをする → 〇〇大学内のパソコンからなら、ユーザ登録やID/PW入力をしなくても、どなたでも「iyakuSearch Plus」をご利用いただけます。

※IPアドレス認証での利用の際は、複写オーダ（有料）はご利用になれません。

今までの、ユーザ登録、ID/PW入力でのご利用も可能です。

※ID/PW入力での利用の際は、複写オーダ（有料）を利用できます。

トピックス TOPICS

第36回JAPIC医薬情報講座を開催して

3月6日(木)、7日(金)の両日長井記念館ホールで第36回医薬情報講座を開催しました。今回のテーマは「医療の安全対策と医薬品情報」で行政、医療現場、学界、企業所属の専門家9名の方々から現況と今後の方向性について講演いただきました。講師の先生方が第一線で活躍されていることもあり、1日目180名、2日目187名の参加申込者があり大変盛況でした。プログラムは下記のとおりです。

3月6日(木)

「薬価制度について」

厚生労働省医政局 近澤 和彦 先生

「最近の安全対策の取組みについて」

厚生労働省医薬食品局 倉持 憲路 先生

「看護師から見た医薬品と医療安全」

社団法人日本看護協会 楠本 万里子 先生

「呼吸器系重篤副作用への対応」

信州大学医学部内科学 久保 恵嗣 先生

3月7日(金)

「医療機関への情報提供 製薬企業の立場から」

日本製薬工業協会医薬品評価委員会(鳥居薬品) 浅田 和広 先生

「日病薬:情報提供に期待するもの」

虎の門病院薬剤部 林 昌洋 先生

「患者向医薬品ガイド」

日本製薬工業協会医薬品評価委員会(日本臓器製薬) 黒木 正 先生

「日病薬:専門薬剤師への取組み」

島根大学医学部附属病院 岩本 喜久生 先生

「機構における医薬品安全対策について

「副作用等報告から使用上の注意の改訂まで」

医薬品医療機器総合機構 三澤 馨 先生



長井記念館ホール

参加者は大学、県薬剤師会、病院薬剤部の方々も居られましたが、企業で安全性情報を何らかの形で扱ってられる方が多く参加されていました。

首記講演会の安全性と情報については提供側、受け取り側の観点および行政での対策を中心に講演されましたが、特に医療現場での事例説明や提供側への要望等に関心が高かったようです。また、薬価制度についての概括説明、呼吸器系重篤副作用についての概説、専門薬剤師制度の取り組みの演題は、纏めて聞いたということで参考になったというアンケートでのコメントが多数ありました。本講座が基礎研修としての役割の一端を担っていると考えられます。尚、今回本講座は参加申込者が多く、会場の収容人員の関係で参加者募集を途中で締め切らせて頂き、一部の方々が参加できなかったことがありました。この場を借りてお詫び申し上げます。(M.Y.記)

「JAPIC医薬情報講座に参加して」

アスピオファーマ株式会社 医薬情報部 清水 久仁恵 (Shimizu Kunie)

薬局薬剤師を経て、今年2月から弊社の医薬情報部で治験・海外安全管理業務を担当しております。今回、初めて医薬情報講座を受講しました。政府、医療機関、製薬企業と、医療人として関わるすべての分野の方々の知見を聴講できた貴重な2日間でした。

講義は近澤先生の薬価制度に関することから始まりました。薬局で投薬していた頃、患者様から薬価に関するクレーム（質問）は多くありました。薬を提供する側の私たちと、受け取る患者様側で薬価の見解に差があるのが現状です。薬価算定制度が患者様の認識に繋がる様に、現場の薬剤師はより努力すべきと感じました。

現場看護師のエタノールを水と間違えて希釈に使用してしまった医療事故について講義して下さいた楠本先生の「人間は思い込んだら、たとえエタノールでも匂いはなくなる」という言葉がとても印象的でした。医療事故を減らす為に、企業は、その薬品を使用するすべての立場の人の為の製品作りをより強化すべきと感じました。表示、文字記載の色使い、パッ

ページの工夫など考えられることは沢山あるはずですが、また、岩本先生が講義して下さいた専門薬剤師（癌分野、感染制御分野）への取り組み強化が求められている現代、看護師も専門分野で活躍する取り組みが必要なのではないでしょうか。

その他、倉持先生の安全対策の取り組み、久保先生の副作用への対応、浅田先生、林先生の医療機関への情報提供、黒木先生の医薬品ガイドに関する講義と、実に広範囲に亘る内容でした。

働く立場によって、問題点、葛藤、改善策は様々ですが、“すべての患者様のために”という点で共通していることを改めて実感しました。今回、学ばせてもらったことを、日々の業務に繋げていきたいと思っております。そして、多くのことに耳を傾け、現状に敏感であるように今後も御社の講座を利用させていただきたいと考えております。

とてもよい勉強ができました。

グラクソ・スミスクライン株式会社 開発本部 安全性管理部 単 麗華 (Tan Reika)

3月6-7日、第36回JAPIC医薬情報講座「医療の安全対策と医薬品情報」に参加しました。薬価基準制度、医療現場での医薬品と医療安全など普段あまり知らない内容から、医薬品安全対策の最新情報まで幅広い内容を受講することができて、大変充実した二日間でした。

私は一年前から、安全性管理の仕事に携わっておりますが、自分の業務以外に分からないことがたくさんあり、日頃から自分で関連資料を調べ、勉強するのは大変時間がかかり、難しいと思っておりました。今回の医薬情報講座で医療の安全対策と医薬品情報に関する知識をまとめて勉強することができてとても嬉しく思いました。特に信州大学医学部久保先生の講義「呼吸器系重篤副作用への対応」は大変興味深い内容でした。

私は臨床内科医の経験がありますが、間質性肺炎、急性呼吸窮迫症候群および非ステロイド抗炎症薬による喘息発作（アスピリン喘息）の診断・鑑別診断に関しては、なかなか難しく、本および文献などの関連資料を調べても、分りにくい内容で困っておりました。今回久保先生はこれらの疾患の病因・発症機序から、診

断・鑑別診断および臨床治療までまとめて分りやすく説明して下さって、とても勉強になりました。臨床の実例を挙げながら詳細に説明され、印象深い内容でした。これらの知識は呼吸器重篤副作用調査に応用できると思います。講演後、今回の資料を安全性管理部スタッフの社内教育資料として使いたいという旨を直接久保先生にお願いしたところ、ご快諾いただき、本当に有難く思います。

厚生労働省の近澤先生は薬価基準制度について、具体的な例を挙げながら薬価算定方式を詳しく説明されました。新医薬品の開発が製薬会社にとって如何に重要かよく理解できました。

また、懇親会の時、演者の先生方およびJAPICの方達との交流ができて、とても嬉しく思いました。私は今回初めてJAPIC医薬情報講座に参加しましたが、短時間で、たくさんの情報をいただき、よい勉強ができて、大変満足しております。演者の先生方及び主催者の日本医薬情報センターのスタッフの方々に心から感謝いたします。今後ともこのような充実した講習会を開催していただければ、ありがたいです。どうぞよろしく願いいたします。

iyakuSearch Plusリリース

JAPICでは平成16年4月より、医薬品情報データベースとしてiyakuSearchを提供してまいりましたが、平成20年4月1日、従来のiyakuSearchのうち、ユーザIDとパスワードを必要としないデータベースを集約したものをiyakuSearchとし、さらにユーザIDとパスワードを必要とするデータベースやサービスを追加したものをiyakuSearch Plusとしてリリースします。

◆iyakuSearchとは

JAPICが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースのうち、ユーザIDやパスワード等の認証を必要としないデータベースを提供するサービスです。

iyakuSearchのトップ画面中央の[Services]には無料で利用できるデータベースがリストされていますので、どなたでも自由に検索・閲覧することができます。

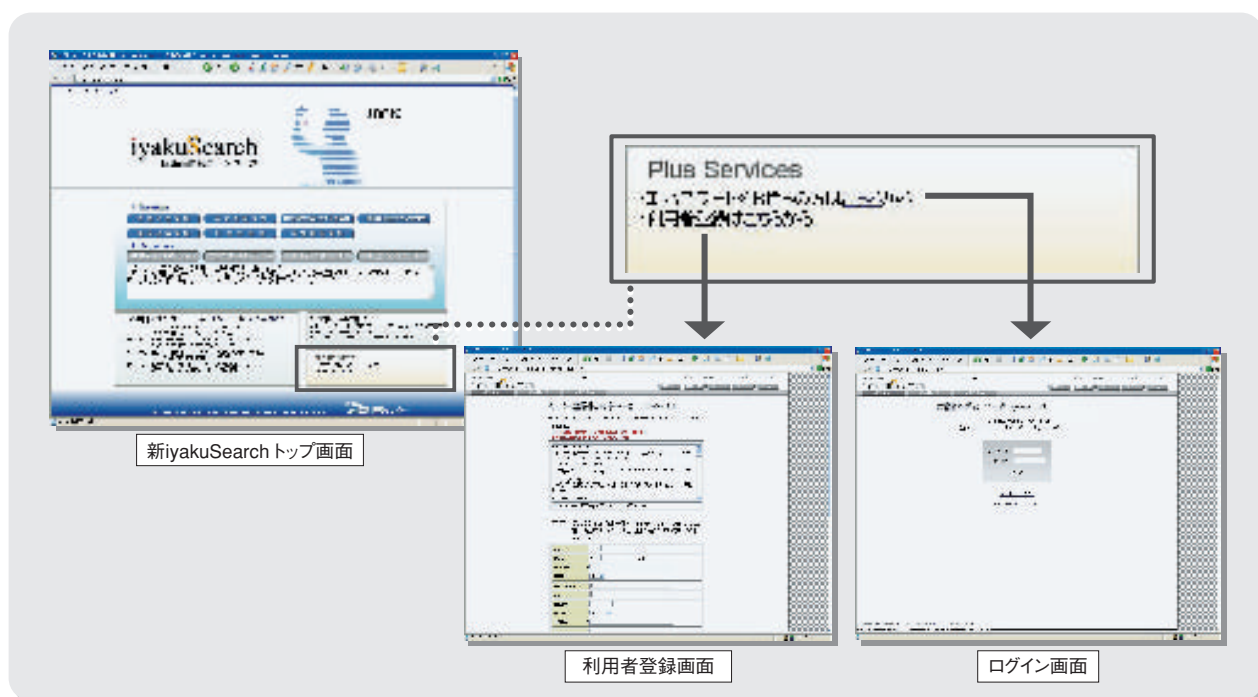
トップ画面左下の[ご案内・お知らせ]では、データベースの最新更新情報をお知らせします。

◆ログイン方法

認証を受けていない利用者の方は、iyakuSearchトップ画面が表示されます。

すでにユーザIDとパスワードをお持ちの方は、トップ画面右下[Plus Services]の「ID・パスワードをお持ちの方は**こちらから**」をクリックしていただき、ログイン画面からログインしてください。一度ログインしていただきますと、次回からは自動的にiyakuSearch Plusへアクセスします。

まだユーザIDとパスワードをお持ちでない方は、この機会に利用者登録をご検討ください。[Plus Services]の「**利用者登録はこちらから**」をクリックしていただくと、利用者登録画面が表示されます。



◆ iyakuSearch Plusとは

JAPICが提供しているデータベース等から、ログインが必要なデータベースやサービスを[Plus Services]として取りまとめ、iyakuSearchで無料提供するデータベースと統合・整理してトップ画面を構成し、ログイン認証を受けた利用者向けのデータベースサービスとしてリリースします。

一度ユーザとして認証を受けると、次回同じパソコンからiyakuSearchにアクセスした際には、認証を意識することなくiyakuSearch Plusへアクセスできるようになります。

例えば、一度ログインしてiyakuSearch Plusの「医薬文献情報」の抄録情報をご覧いただいた利用者の方は、次回iyakuSearchへアクセスした際には、ログインすることなくiyakuSearch Plus「医薬文献情報」の抄録情報を閲覧することができるようになります。

◆ iyakuSearch Plusの新機能

1) クッキー認証機能

認証情報(ユーザIDとパスワード)を利用者のパソコン内にクッキーとして保存するため、次回、iyakuSearchへアクセスすると自動的にiyakuSearch Plusへ誘導されます。

(ブラウザの設定で、Cookieが許可されていることをご確認ください)

2) IPアドレス認証機能

利用機関のIPアドレスを登録することにより、個人で利用者登録をすることなく、利用機関内からiyakuSearch Plusへアクセスすることができます。

(「複写BOX」等、一部ご利用いただけない機能があります)

3) 電子ジャーナルリンク機能

「医薬文献情報」の検索結果から、J-STAGE(JST)で提供されている電子ジャーナルへリンクします。この機能追加により、60タイトル以上の電子ジャーナルの原著論文を読むことができるようになります。J-STAGEで認証が必要な電子ジャーナルの場合は、抄録ページにリンクします。J-STAGEの認証につきましては、ご利用機関と各出版社とのご購読契約に依存します。

4) 規制措置情報データベース

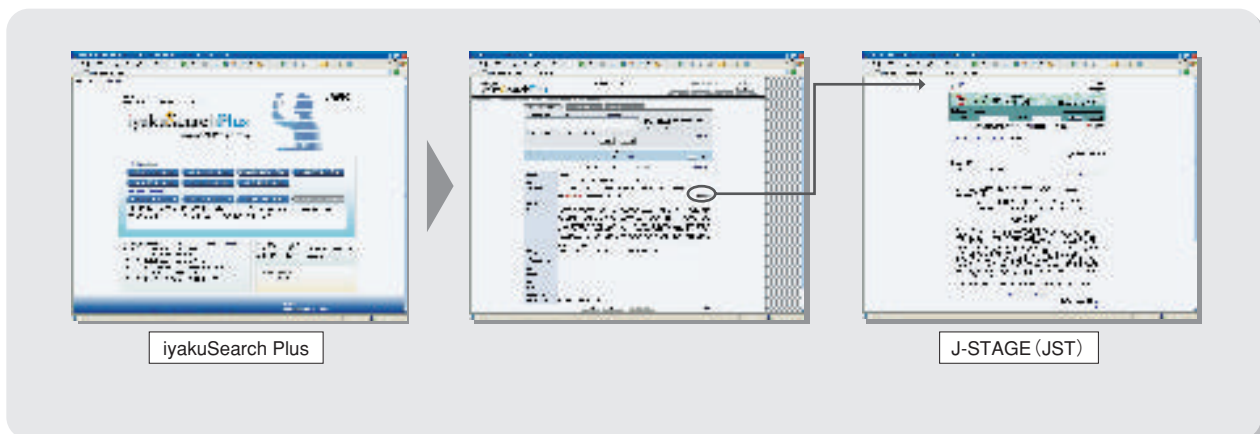
規制措置情報(JAPIC Daily Mail)サービスをご利用いただいている機関の方は、規制措置情報データベースをご利用いただけますが、一度ログインしていただきますと、次回以降、ログインすることなくご利用いただくことができます。「JAPIC Daily Mail DB」としてご提供します。

iyakuSearch Plusの詳細につきましては、

■ 事務局業務・渉外担当

TEL 0120-181-276 E-mail gyoumu@japic.or.jp

までお問い合わせください。



新薬学教育

—医療薬学科と創薬科学科—

近畿大学 薬学部長 掛樋 一晃 (Kakehi kazuaki)



例年、本学は日本医薬情報センターから「日本の医薬品 構造式集」と「医療用医薬品集」を提供いただいている。「日本の医薬品 構造式集」は私が担当している薬学概論(1年次学生向け)の最初の時間に学生に配付し、医薬品の構造式をいくつか示しながらその構造と生理作用の関係を解説し、薬学が「薬」を通じて人の身体と疾病を理解する学問であることを説明している。学生は構造式を通じて薬を理解することにより、薬学と医学の違いを認識してくれると期待している。一方、「医療用医薬品集」は4年次の学生に配付し、病院実習に出かける前の模擬薬局実習で、医薬品情報を検索する最初の段階で、「医療用医薬品集」を用いて添付文書情報をまず入手し、警告、禁忌、副作用や相互作用などの注意事項を確認し、例えば処方箋の問題点把握などの実習に役立てている。

本学では学生の自主的な学習を促すためにいろいろな努力をしている。日本医薬情報センターから提供いただいたこれらの資料は、例えば本学独自の科目として1年次に開講する基礎ゼミでも有効に利用させていただいている。平成19年度に実施された基礎ゼミで学生が考えたテーマを表に示す。【表1】基礎ゼミは、1年次の学生を約10人程度の少人数グループに分けて、グループ毎に学生達がディスカッションをし、書籍やインターネットを利用して自分たちが設定したテーマを研究する。10回の講義の最後にポスター発表し、教員も交えてディスカッションを行う。2名または3名の教員が1つのグループに立ち会いが、学生のディスカッションには基本的に介入しない。資料を

見ていただければ、入学直後の学生が薬学にどのようなイメージを抱いているかが窺える。入学直後の学生が薬学に抱いているイメージを具体化するために、多くの資料を準備してまとめて発表する様子を見るのは誠に興味深いものである。

薬剤師国家試験受験資格を取得するために必要な年限を6年とする新薬学教育が始まって2年が経過した。本学では、旧4年制の学生、そして新たに設置した6年制の医療薬学科と4年制の創薬科学科の異なるコンセプトの3学科(学部)の教育を併行して進めている。折しも、多くの薬科大学が新設され、関西でも5大学に薬学部が新設されて従来の7大学が12大学となり、優秀な学生を確保するために長期的な展望に立った研究活動の進展や国家試験における高合格率の確保を目指した教育などの本来の業務はもとより、独自性を活かした医薬連携教育の推進など、教員は毎日てんてこ舞いである。

先日、医薬品メーカー、CRO、卸会社など43社に参加いただいて、恒例の企業説明会を開催した。本学では新たに設置された4年制の創薬科学科の学生が平成22年の春に就職することから、平成21年度から医薬品業界にその就職をお願いしなければならない。参加いただいた各社に、創薬科学科の卒業生の採用について伺ったところ、大方の会社から、例えば『創薬科学科の学生さんは薬剤師免許にこだわることがないので、むしろ我々製薬企業向きの人材が多いのではと考えます』などの大変好意的なご意見をいただき、心強い思いがした。しかし、

4年制の創薬科学科の学生については平成29年度の入学者までは移行措置として国家試験受験資格を認定する制度がある以上、かなりの学生が薬剤師受験資格を希望すると予想されるので、現在そのカリキュラムを検討しているところである。

一方、6年制の医療薬学科ではCBT、OSCE、実務実習などに取り組みなければならないが、施設や教育体制を同時並行で整えていかなければならないために時間との競争となっている。さらに、CBTやOSCEについては、当初各大学で合格基準を定めるという風に理解されていたが、実務実習を実施する担保としなければならないという法的側面から準国家試験的な性格をもつようになり、それに伴ってコアカリキュラムのかなり広い分野が出題範囲とされ、しっかりした対策も必要になると感じている。

薬学が、「薬」という物質に根ざした学問である以上、新しい6年制の薬剤師教育がミニ医師を育てるものではないという意見がしばしば見受けられる。もちろん、薬学に関する基礎の修得が非常に重要であることは論を待たないが、明治以来から連綿と続いている薬学教育は創薬に多くの時間が割かれてきたことも事実である。そして、今回の6年制教育の目標が医療チームの一員として臨床に強いあるいは臨床を目指す薬剤師を育てることであるならば、その理念は当然従来の薬学教育と変わ

らなければならないだろう。このような議論は、コアカリキュラムの設定、CBTおよびOSCEの受験資格そして薬剤師国家試験の試験範囲を決定する上で避けて通れない問題であり、現在盛んに議論されているところである。しかし、教育の現場にいる立場からいえば、近畿大学薬学部に入学者に卒業までの基本的な道筋を示すことが、学生との契約上肝要であるにもかかわらず、現在に至っても明確にかつ詳細に道筋を示すことができないのは非常に辛いものがある。また、このことが基礎系と臨床系の教員の意思の統一を図ることをむずかしくしている要因にもなっている。ある教員は、「薬学6年制を契機に、臨床に長けた専門薬剤師の養成を目指すことが6年制のあるべき姿である」と主張し、またある教員は、「薬学は非常に学際性の高い学問分野であり、薬剤師としてだけでなく、医薬品メーカー、公的試験機関などへの従来の多様な進路を確保すべきある」と主張する。学生にできるだけしっかりした将来展望を示すのは教育する側の義務であり、教員から出されるこれらの意見はすべて正当なものである。であればこそ、CBT、OSCE、国家試験出題範囲、4年制学生の薬剤師受験資格などの現在検討が進められている重要課題について、新しい薬剤師教育の理念に沿ったものであるかを再度検証する必要があるのではないだろうか。

【表1】 2007年(平成19年度)『基礎ゼミ』テーマ(平成19年6月22日)

研究室名	テーマ	研究室名	テーマ
分子医療・ゲノム創薬学	「ゲノム先端医療・再生医療から遺伝子治療まで」	教育専門部門	1.副作用 —あなたの身にも起こるかも?!—
細胞生物学	“再生医療への期待”		2.ストレスが体に与える影響
薬用資源学	“化粧品について”	公衆衛生学	「えっ!漢方って健康食品じゃないの」
生物情報薬学	「風邪に用いる大衆薬」と「痔の治療法」	衛生化学	「食品添加物における酸化防止剤と保存料について」
生物薬剤学	「遺伝子治療のいま」	薬品物理化学	「ジェネリック医薬品～あなたは使いますか～」
薬物治療学	「日常生活と深く関わるサプリメント」	薬品分析学	香りの正体 ～香水の中身を探ってみよう～
病態薬理学	「遺伝子治療と再生医療」	医薬品化学	急性アルコール中毒
生化学	『麻薬について』	有機薬化学	「アロエと大豆ってすごい…外来植物をかがくの目でみてみよう」
製剤学	「免疫細胞の分化過程とその働き」	天然活性物質学	プラセボ効果～人間の持つ不思議な力～
生体分子解析学	「命の尊さ —タバコ1本で人生が変わる—」	薬学総合研究所	「添加物だらけの人生 ～日常に潜む危険～」
臨床薬学部門	1.「LIFE is ビタミン」		
	2.「食生活を楽しまう～現代人の栄養について考える～」		

薬の歴史 —博物館から—

(財) 日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 平林 洋介 (Hirabayashi Yosuke)

薬の情報はWebで手軽に収集できる時代になりましたが、薬の歴史を知る、実物を見るというのも、先人の知恵を学ぶには欠かせないものです。今回は、そのWebから得られた情報を基に、薬の博物館を北から順にご紹介してみます。

はじめに、札幌市にある「漢方薬資料館草木庵」(そうもくあん)。平成3年11月に開設され、650種2,500点に及ぶ漢方資料が保管されています。次に日本歯科大学新潟生命歯学部内にある「医の博物館」。平成元年9月に開館し、医学や薬学に関する史料(15世紀から現在に至る東西の古医書、浮世絵、医療器械器具、薬看板、印籠など)約5,000点が展示、保管されています。

関東地方では明治薬科大学内にある「明薬資料館」。創立者の恩田重信(剛堂)先生関連資料をはじめ、江戸時代から続いた薬舗に伝わる製薬道具などの薬業資料を集めた「大原薬業資料」、および生薬標本と薬学関係資料などが展示されています。神奈川県小田原市には、「薬博物館(済生堂薬局小西本店)」があります。400年近い歴史を有する済生堂薬局が所蔵品を公開するミニ博物館です。なお、店舗は登録有形文化財となっています。

配置薬で全国に知られる富山には、富山大学民族薬物研究センター「民族薬物資料館」があります。一般公開は年1回ですが、保有資料数や収集範囲の広さの点では世界一、学術的、博物学的に価値の高い資料が多い生薬博物館です。富山市にはもう一つ「広貫堂資料館」があります。売薬さんの道具や薬のパッケージなどの資料が展示されています。スクリーンでの映像や生涯学習コーナーもあります。

また、製薬企業と関わりのある施設として、岐阜県各務原市にある「内藤記念くすり博物館」。昭和46年6月にエーザイ(株)創業者の内藤豊次氏

によって開設されました。収蔵資料65,000点、収蔵図書62,000点のうち約2,000点が展示されています。

さて、配置薬では大和の薬の歴史も大変古いものがあります。奈良県高取町にある「くすり資料館」は、平成18年4月に開館しました。薬業に関する資料を展示しています。同じく奈良県にある、「三光丸クスリ資料館」。配置薬販売の歴史や実際を知ることができ、登録済の資料数は2,224点、分類・整理中のものは数千点に及ぶ資料館です。

富山に続き、こちらも薬業界では有名な地域、大阪道修町には、平成9年10月開館の「くすりの道修町資料館」があります。道修町の薬業に関連する資料を、テーマに基づいて6ヵ月毎に展示しています。

日本の四大売薬[富山・大和(奈良)・近江(滋賀)・田代]の一つ田代売薬で知られている佐賀県鳥栖市には、久光製薬(株)が平成7年3月に開設した「中富記念くすり博物館」があります。約100年前にロンドン郊外に建てられた調剤薬局がそのまま移設展示されています。

最後に、長崎大学にある「お薬の歴史資料館」。慶応元年(1865年)に開業した片峰薬局で、実際に使用され、保存されていた百味箆笥や掛看板などの資料の寄贈を受けて、長崎大学の資料と併せて展示するため、平成18年11月に開館しました。

以上、Web散策だけでもためになる?薬の博物館のご紹介でした。徹底的な調査ではありませんので、首記から漏れた博物館もあるかもしれないことをお断りしておきます。薬に関する知見を深める助けになればと思います。

書評

医薬品の効能効果と 標準病名が対応する 『添付文書記載病名集』の意義

国際医療福祉大学

開原 成允 (Kaihara Shigekoto)



この本は読む本ではない。診療報酬請求に際してある医薬品がどの病名に対して使えるかを調べる辞書のようなものである。

医薬品が使える病名は、添付文書に「効能効果」が書いてあるからそれを使えばいいと通常は思う。ところが、実社会ではそうはならないところが面白いところで、この本はそうした実社会の機微を解き明かした本なのである。

そう書いても、何のことかわからないであろうから例をあげよう。アスピリンという医薬品があるが、添付文書の効能効果には、「慢性関節リウマチ、リウマチ熱、変形性関節症、強直性脊椎炎、関節周囲炎、結合織炎、術後疼痛、歯痛、症候性神経痛、関節痛、腰痛症、筋肉痛、捻挫痛、打撲痛、痛風による痛み、頭痛、月経痛、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)の解熱・鎮痛、川崎病(川崎病による心血管後遺症を含む)」と書いてある。

今、この中の「捻挫痛」に対してアスピリンを使い、診療報酬請求には、「捻挫痛」という病名を書いたとする。しかし、診療報酬請求に使う病名には、「標準病名集」ができていて、その病名しか使ってはならないことになっている。今はそれほど厳格ではな

いが、明細書が完全に電子化されると、将来は標準病名以外では請求ができなくなるかもしれない。これは、やたらに同じような病名が出てきては困るから病名の標準的記載法を決めようということである。ところが、標準病名集には、「捻挫痛」がないので、添付文書の効能効果を診療報酬明細書にそのまま書くと、病名が誤っているということで返戻されることがある。つまり、効能効果の病名と診療報酬請求の標準病名集の間には、整合性がとれていない。それではどうすればよいかというと、標準病名集の中にある同じ内容の病名、例えば「捻挫」を見つけ、それに置き換えて診療報酬請求をすることが必要なのである。

しかし、どれが同じ内容の対応する病名であるのかについては、公式に決まったものがあるわけではない。このため、医療機関は困惑しているのみか、

実際に病名不一致で返戻されるという実害もあるのが現状である。

それでは、逆に、添付文書の効能効果に標準病名集を使えばいいではないかということも考えられる。しかし、効能効果の病名は、長い年月をかけて薬事審議会で一つ一つ検討して決められたものであるから簡単には変えられない。過去に蓄積された膨大な効能効果の病名を書き換えようとするれば、また薬事審議会を開かなければならないがそれもできない。そもそも、標準病名集は保険局の管轄であるし、添付文書は医薬食品局の管轄であるから、お役所の縦割りによって他の局のことなど、あまり関心がないのかもしれない。

というわけで、今に至るもこの問題は公式には解決されていない。困っているのは間に挟まっている医療機関で、何とか添付文書の病名と標準病名の対応表が欲しい。この本はまさにこうした悲鳴にも似た医療機関の声に答えたものなのである。

しかし、既に述べたように、この対応については、どこにも公式に決まったものがないから、これは誰かが知恵を絞る勇気を奮って決めてしまう他はない。この本は、それをするために、複数の医師に協力を

仰ぎ、最も合理的な対応を考え、三段階の确实性の順位をつけて示してある。

これは言うはやさしいが、膨大な労力であった。JAPICの人たちがそれを苦勞して行ったのであり、ここにこの本の大きな価値がある。また、標準病名集の普及という観点からも、これは非常に重要な作業であり、標準病名集を推進してきた私の立場からも大変ありがたく、作る過程で多少のアドバイスもさせていただいた。

幸いなことに、他に類書がないために、今ではこの本の対応付けが、ある意味ではデファクト・スタンダードになりつつあり、厚生労働省も暗黙のうちに認めているようでもある。今後の医療の世界の必須の本として、広く使われることになるであろう。

この本の使い方としては、いちいち本を見るのは大変なので、この電子データを病院情報システムの中に組み込んで、医師が処方をする時に使えるようにすることが望ましい。実際にそれをして、返戻率が大幅に減少した病院もあると聞いている。この本やデータをうまく使いこなせば医療機関は必ず得をするはずである。広く普及することを願っている。

【新着資料案内 平成20年2月7日～平成20年3月4日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

＜配列は書名のアルファベット順＞

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
第十五改正日本薬局方 第一追補 解説書 著者名/日本薬局方解説書編集委員会 編	廣川書店	2008年2月		¥42,000
European Pharmacopoeia 6.0 6th edition Supplement 6.2 著者名/Council of Europe	Council of Europe	2007年12月	289p	¥18,122
FASS 2008 Forteckning over humanlakemedel 著者名/Lakemedelsindustriforeningen,LIF	LIF (Lakemedelsindustriforeningen)	2007年11月	2,414p	
医療機器承認便覧 平成19年版	薬務公報社	2007年12月	154p	¥4,200
医薬品添加物事典2007 著者名/日本医薬品添加物協会 編	薬事日報社	2007年7月	487p	¥17,400
基本医療六法 平成20年版 著者名/基本医療六法編集委員会	中央法規出版	2007年12月	1,554p	¥3,780
MIMS Annual 第十一版 2007/2008 (中国薬品手冊年刊) 著者名/梁慧芬	CMPMedica Pacific Limited	2007年	1,454p	
MIMS Annual Hong Kong・HKIMS 18th Edition 2007/2008 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Pacific Limited	2007年	1,688p	
MIMS Annual Indonesia・IIMS 18th Edition 2008 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Asia Pte Ltd	2008年	1,083p	
MIMS Annual Malaysia・DIMS 18th Edition 2007/2008 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Pacific Limited	2007年	1,515p	
MIMS Annual Myanmar 11th ed. 2007 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Asia Pte Ltd	2007年	986p	
MIMS Annual Singapore・DIMS 19th Edition 2007/2008 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Asia Pte Ltd	2007年	1,640p	
MIMS Bangladesh Issue 2/2007 Bangladesh Index of Medical Specialities 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Asia Pte Ltd	2007年	424p	
MIMS Taiwan 台湾薬品手冊 36ed. 2008 1st Issue 2008 著者名/Leong Wai Fun B. et al ed.	CMPMedica Pacific Limited	2008年	614p	
ポケット医薬品集 2008年版 著者名/融原 徹	白文社	2008年1月	1,134p	¥4,935
Repertorium 07/08 著者名/Pharma Publishers B.V.	Pharma Publishers B.V.	2007年	1,308p	¥13,860
新薬承認情報集 平成18年 No.24 アムホテリシンB [アムビゾーム点滴静注用50mg] 平成18年4月承認 著者名/(財)日本薬剤師研修センター	(財)日本薬剤師研修センター	2007年3月	1,657p	¥8,295
新薬承認情報集 平成18年 No.45 アガリシゲルゼ アルファ (遺伝子組換え) [リプレガル点滴静注用3.5mg] 平成18年10月承認 著者名/(財)日本薬剤師研修センター	(財)日本薬剤師研修センター	2007年4月	760p	¥4,200
新薬承認情報集 平成19年 No.05 リバビリン ベグインターフェロンアルファ-2a (遺伝子組換え) [コペカ錠200mg] [ベガシス皮下注90μg,同180μg] 平成19年1月承認 著者名/(財)日本薬剤師研修センター	(財)日本薬剤師研修センター	2007年6月		¥26,880
スタンダード医学英和辞典 第2版 著者名/吉村 博邦 他編	南山堂	2008年2月	1,328p	¥5,040
ステッドマン医学大辞典 改訂第6版 英和・和英/オールカラー 著者名/ステッドマン医学大辞典編集委員会 編	メジカルビュー社	2008年2月	2,648p	¥16,800
添付文書記載病名集 Ver.2.0 (2008年2月版) 著者名/百藤 結一 他著	日本医薬情報センター	2008年2月	1,398p	¥7,800
ViDAL 2008 Le dictionnaire 84ed. 著者名/Vidal editions	Vidal	2008年	3,133p	¥41,580
ViDAL Vietnam 2007 著者名/Leong Wai Fen ed.	CMPMedica Asia Pte Ltd	2007年	938p	
薬事法・薬剤師法・毒物及び劇物取締法解説 第18版 著者名/青柳 健太郎 他著	薬事日報社	2008年2月	966p	¥3,990
薬剤識別コード事典 平成20年改訂版 著者名/医薬ジャーナル社編集部 編	医薬ジャーナル社	2008年2月	500p	¥5,040

情報提供一覧

【平成20年3月1日～3月31日提供】出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	データベース一覧	更新日
＜出版物等＞		＜iyakuSearch＞	http://database.japic.or.jp/
1.「医薬関連情報」3月号	3月28日	1.医薬文献情報	月1回
2.「Regulations View Web版」No.151	3月28日	2.学会演題情報	月1回
3.「添付文書入手一覧」2008年2月分 (HP掲載)	3月28日	3.医療用医薬品添付文書情報	月2回
4.「JAPIC NEWS」No.287	3月28日	4.一般用医薬品添付文書情報	月1回
5.JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年3月版	毎月末日	5.規制措置情報	毎日
6.「JAPIC医療用医薬品集普及版」2008	3月末日	6.臨床試験情報	随時
7.「JAPIC日本の医薬品構造式集」2008	3月17日	7.日本の新薬	随時
＜速報サービス等＞… FAX、郵送、電子メール等で提供		8.学会開催情報	月2回
1.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.626～629	毎週	9.医薬品類似名称検索	薬価収載時
2.「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎週	＜JIP e-InfoStreamから提供＞	https://e-infostream.com/
3.「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	1.「JAPICDOC速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月1回
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1660～1679	毎日	2.「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月1回
5.JAPIC Weekly News No.146～149	毎週木曜日	3.「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月1回
6.「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.231～235	毎週月曜日	4.「MMPLAN (学会開催予定)」	月1回
7.「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	5.「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月1回
8.JAPIC「医療用医薬品集」2008更新情報2008年2月版	毎月10日	6.「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)	月2回
		7.「SHOUNIN (承認品目情報)」	月1回
		＜JST JDream IIから提供＞	http://pr.jst.go.jp/jdream2/
		「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月1回



医薬品の効能効果と標準病名が対応する

添付文書記載病名集

Ver.2.0 (2008年2月版)

- 対応する標準病名を大幅に見直し! 医療用医薬品 14,000品目 (漢方製剤を除く) の効能効果に対応する約6,800標準病名を掲載!
- オンライン請求のレセプト点検を支援!
- これまでにない画期的な実践対応書!

商品名(先発品)を五十音順に掲載し、「後発品」「薬価」も全て掲載。さらに「用法用量」「警告」「禁忌」「原則禁忌」「併用禁忌」も掲載。さらに、後発品も加え添付文書と薬価基準の必須情報が全て盛り込まれており、適切な医薬品の選択が可能。

医薬品の「効能効果」(適応症)をICD-10の標準病名に対応させ、さらに臨床上使用される詳細な病名に対応。

その上さらに、◎効能効果に一致する標準病名 ○妥当と判断した標準病名 △妥当性に判断を要する標準病名に分類!

発行 (財)日本医薬情報センター (JAPIC)

B5判 約1,500ページ
ISBN:978-4-903449-40-1
お申込先 ☎ TEL 0120-181-276

7,800円
(税込)

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュどうぞ!!



同じ木から白と桃色の二色の花が咲く珍しいモモの品種である。鎌倉駅に近いお寺の入り口にあるので、観光客が沢山シャッターを切っている。桜にやや遅れて開花する。漢方では桃仁は有名な「駆お血剤」だが、この際は単純に花を愛でよう。(ky)

げんぺいもも

JAPIC ホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。